

● 設立発起人会、設立総会・理事会

有馬朗人会長の挨拶

お忙しいところ、お集り頂きまして、ありがとうございます。私が有馬ロウジン（朗人）でなくてアキト（朗人）と読みますので、しかとご認識を賜りたいと思います。朗（ほがらか）な人（ひと）と書きまして、アキト（朗人）と読ませております。子供の名前は、アキコ（朗子）です。朗子（アキコ）は誰でも読めるのです。ところが人（ひと）を付けますと、とたんに（ロウジン）だとかね、素浪人とか言うことになりますんでね。よろしく願いを致します。

実は、一昨日、アメリカから帰って参りました。アメリカももちろん、日本と同じように不況でありまして、ただ私は科学技術においてアメリカにまた負けた、という気がします。

それはどういうことかと申しますと、私の専門に近い計算機、地球シミュレーターというのが、ご存じだと思いますが、現在、温暖化の問題で、大変活躍をしています。この地球シミュレーターは NEC（日本電気）が作りましたけれど、世界で一番という時代が今から数年前、5、6年ずっと一番で頑張ってきました。今でも、今度少し直しましたので、また、少し復活すると思います。この 10 年、15 年、私は非常に心配していたことは、そこまで進んできた計算機が、その後伸びなくなったということです。20 年と言っていいと思います。

経済産業省、旧通産省が第 5 世代で非常に苦勞して下さった。その頃までは良かった。その後、そこにモット（MOT）の重要性が出てくるわけですが、日本の研究者は、みんな“自家用車”になってしまった。日本の計算機が非常に進んだために小型のスーパーコンピューターができたので、皆、家庭と言うと言い過ぎですが、研究室に 1 億円か 2 億円使って、自家用の“自動車”を持ってしまった。すなわち自家用スーパー計算機を持ってしまった。

一方、アメリカはそこまで負けたと思ったことから、IBM などが猛然たる復活を致しまして、自家用型のパソコン・プラスアルファの計算機も良くしていますけれど、スーパーコンピューターを猛然伸ばしてオークリッジな

どの国立研究所の計算センターを充実させました。オークリッジは原子力の最初の頃に活躍しておりましたウラニウム 235 を分離したことで有名です。その研究所に 1 週間弱いたのですが、その研究所の計算センターのすざましき。皆様、よく覚えておいて下さい。一度、見て下さいな。アメリカへ一緒に行きましょうよ。猛然たる計算センター、それが日本ではどうかというと、やっとおとし、理化学研究所に研究費が付いたので、今作っているところです。10 年遅れているのです。

折角ピークを出した日本が、計算機でピークを出した日本が、一例を申し上げているわけですが、計算機というものが、どうあるべきかということに関して、経営工学的な立場からきちんと認識して頂きたい。新幹線を走らせる、新幹線的な、ジャンボジェット的な計算機も要るのだという強い認識を持つべきだったところが、この 20 年、日本では計算機について研究者の間にも、政治家などの間にも、そういう認識がなくなってしまった。大変残念に思っております。

私は、オークリッジに行って、日本の技術は素晴らしいのだ、これだけ地震があっても日本の原子炉はひとつも痛まなかったと言って自慢をして、新幹線がいかにすごいかという話をしてきたのですが、残念なことに、今、申しましたように一角、計算機というところで負けてしまった。

多分、これはそれだけではなく、加速機であるとか、基礎科学の上でも、DNA にしても、やはり負けているような気がします。

そこで、今回のようなモット (MOT) 振興協会ができて、将来の科学技術がどうあるべきか、しかも、それも使ってイノベーションを伸ばしていく。そういうことに関して、しっかりとした見解を持つような人々が大勢出てくる必要があると思います。

そういう意味で、私は日本の技術は素晴らしいと思います。本当に素晴らしい。それを世界に売り出していく力を MOT で鍛えて頂いて、振興協会でも鍛えて頂いて、少し売り出して頂きたいと思います。

この日本 MOT 振興協会が皆様のお力で本日発足することになりまして、大変素晴らしことだと思っています。日本が 1980 年代までものすごく伸びてきたのは何ぜか。それが 1990 年代になってやや弱ってしまったのは、

何れであったか。

経済の方は、私、分かりませんので、技術上で、科学技術の上で、どのように考えれば良いかご指導下さい。こうやるべきだというふうなことも、ぜひともご議論賜り、科学技術の将来も見通していけるような素晴らしい経営者をお育て頂くべく、お力添え賜ればと思っている次第でございます。

口はばったいことを申しましたけれど、私は、日本は、随分力があると思います。終戦直後のことをお考え頂きたい。日本の力は、本当にものすごい。強いですね。だから、自信を持っていいと思うのです。ここには、色々なご専門の方々、第一戦の方々がお集りですので、ぜひとも今夜から、どういふふうに日本の技術を伸ばしていったらいいか、日本の科学を伸ばしていったらいいかということについて、ご指導を賜りたいと思います。

少し長くなりましたけれども、この協会の設立発起人会、設立総会・理事会の最初のことでございますので、ご挨拶を申し上げた次第でございます。

ありがとうございました。